

平成18年度病害虫発生予報第2号

長崎県病害虫防除所長

【気象(平成18年5月12日発表 1か月予報 福岡管区气象台)】

<予想される向こう1か月の天候>

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並が高く、3～4週目は平年並でしょう。

要素別確率 単位(%)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

\* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(葉いもち) イネミスゾウムシ	並 やや少	並 やや少
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病 ハダニ類	やや少 並 やや少	やや少 並 やや少
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	やや少 並 - やや少 やや少 並	並 やや多 並 やや少 やや少 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	やや多 並 並	やや多 並 並
なし	黒星病(注意報第4号) アブラムシ類	多 少	多 少
ぶどう	黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 やや少	並 やや少
果樹共通	果樹カメムシ類(注意報第5号)	やや多	多
茶	炭疽病 カンザワハダニ クワシロカイガラムシ チャノココクモンハマキ チャノホソガ	並 やや少 並 並 並	並 やや少 並 並 並

【早期水稲】 ( ) 内は平年値 [ 以下同じ ]

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 5月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(36筆)の結果、食害株率は1.3%(5.3%)、発生圃場率は25.0%(41.0%)、1株当たり寄生虫数は0.00頭(0.00頭)であった。

イ 5月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、食害株率は20.0%(39.0%)、成虫の寄生は認めなかった(寄生を認めない)。

【いちご】

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率2.0%(5.4%)、発生圃場率は15.2%(27.0%)であった。

2. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(33筆)の結果、*C.acutatum*(通称:葉枯炭疽病)の発生は認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率1.7%)。また、*G.cingulata*の発生も認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.7%)。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率1.4%、発生圃場率11.8%)。

【かんきつ】

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率3.5%)。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生にとって好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

春葉での発病が見られる圃場では、果実への感染を防ぐために幼果期に臨機防除を実施する。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病を認めなかった(発生を認めない)。

イ 越冬病斑は平年より多い。

ウ 5月上旬に強風雨があり、本病が感染しやすい条件にあった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病枝や葉を除去する。

イ かいよう病に弱い品種や越冬病斑が多い園では落弁後に薬剤による防除を行う。

3. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みである。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.2%(2.9%)、発生圃場率は25.6%(23.3%)であった。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(図)。

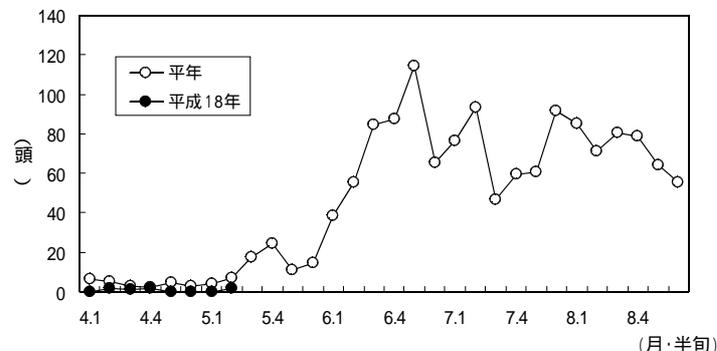


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ)  
平年は平成8~17年の平均

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表の予測発生ピーク日からその5日程度前までに薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ ただし、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる第2世代成虫の予測発生ピーク日

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 馬谷川
発生ピーク日	6/12	6/12	6/17	6/9	6/12	6/13	6/9	6/9

- 注1：発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。  
 注2：プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500メッシュを利用。  
 注3：平成18年5月11日現在で予測し（1月1日～5月11日まで実測値）、5月12日以降のデータは平年値を利用した。  
 注4：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

## 6. ヤノネカイガラムシ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

昨年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査の結果、ヤノネカイガラムシの被害果率は0.3%（0.2%）と平年並であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

各地区の防除適期は、アブロード水和剤（フロアブル）では下表の予測初発日の25日後頃、有機リン剤では40日後頃である。

表 ヤノネカイガラムシの第1世代1令幼虫予測初発日

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 代	北有馬 馬谷川
初発日	5/10	5/9	5/11	5/9	5/10	5/11	5/10	5/11

- 注1：各地区の選果場がある地点で算出している。  
 注2：ながさき農林業情報システム病害虫発生メッシュを利用して予測。  
 注3：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

## 【びわ】

### 1. がんしゅ病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発病枝葉率は3.0%（1.8%）、発生圃場率は80.0%（38.9%）であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布は、収穫後早めに行う。

### 2. 灰斑病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発病枝葉率は0.5%（1.0%）、発生圃場率は30.0%（26.7%）であった。

### 3. ナシヒメシンクイ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査（10筆）の結果、寄生枝葉率は0.2%（発生を認めない）、発生圃場率は10.0%であった。

イ フェロモントラップ（諫早市）での誘殺量はほぼ平年並で推移している（図）。

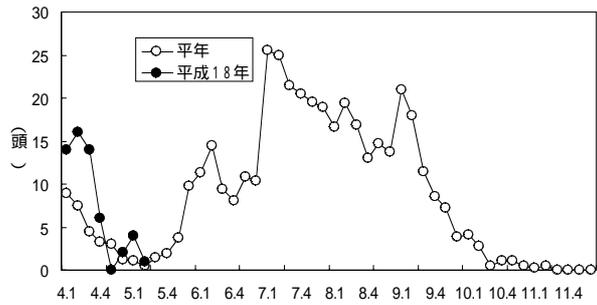


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ) (月・半旬)  
 平年値は平成8～17年の平均

【なし】

1. 黒星病

平成18年5月16日付け平成18年度病害虫発生予察注意報第4号による。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生は認めなかった(寄生新梢率2.1%発生圃場率28.9%)。

【ぶどう】

1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は8.3%(7.3%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、被害果房の発生は認めなかった(平年は発生を認めない)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(図:かんきつの項目を参照)。

【果樹共通】

果樹カメムシ類

平成18年5月16日付け平成18年度病害虫発生予察注意報第5号による。

【茶】

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(16筆)の結果、発病を認めなかった(発生圃場率3.9%、発病葉数 0.0/m<sup>2</sup>)。

2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は0.0%(0.6%)、発生圃場率は6.3%(18.6%)であった。

3. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生株率は4.4%(8.5%)、発生圃場率は37.5%(31.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は年3回(5月中旬~下旬、7月下旬~8月上旬、9月中旬~下旬)に発生するが、そのうち5月のふ化直後の薬剤散布が最も重要である。

イ 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を中心に散布する。なお、独自にピーク日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

ウ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測日

地区名	東彼杵 赤木	東彼杵 太の原	世知原 板山	世知原 木浦原	五島 大津
平成18年	5/21	5/28	5/28	5/25	5/13
平成17年	5/17	5/26	5/26	5/22	5/12

注1: ふ化盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法(東彼杵茶業支場)」により算出した。

注2: 使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュ気象データを利用した。

注3: 平成18年5月11日現在で予測し(1月1日~5月11日まで実測値)、5月12日以降のデータは平年値を利用した。

注4: 同一地区内でも標高や土地条件でふ化盛期日が異なるので注意する。

4. チャノコカクモンハマキ

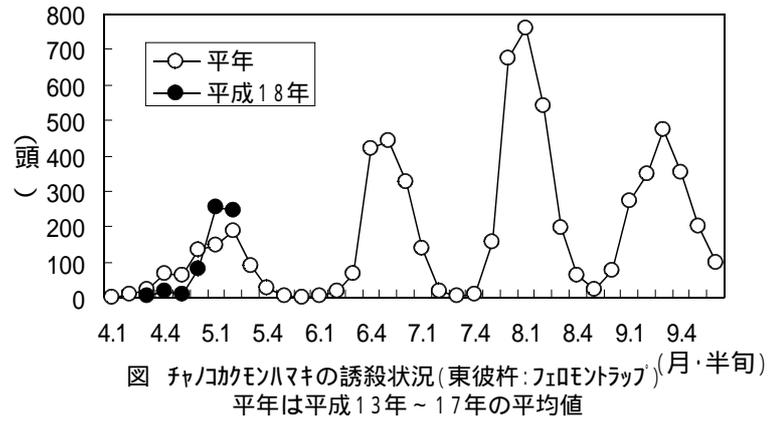
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(16筆)の結果、発生を認めなかった(巻葉数0.0/m<sup>2</sup>、発生圃場率0.6%)。

イ フェロモントラップ(東彼杵茶業支場調査)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。



5. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(16筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(0.0枚)、発生圃場率は12.5%(4.7%)であった。

イ フェロモントラップ(東彼杵茶業支場調査)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。

